

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『和歌山県立星林高等学校新 1 年生研修合宿』における
国際協力に関する講演及びワークショップの実施
2. 実施者：高橋美和子／（特活）関西 NGO 協議会
・
3. 日時：2017 年 4 月 21 日（金曜日）21:30～12:00
4. 場所：和歌山マリーナシティ わかやま館
和歌山市毛見 1520 番地 Tel)073-448-0070
5. 参加者：計 64 名
国際交流科生徒（46 名）、普通科生徒（8 名）、教員（10 数）
6. 実施報告：

<内容>

和歌山県立星林高等学校国際交流科専攻の 1 年生オリエンテーション（1 泊 2 の合宿）において、SDGs をテーマとしたワークショップと講演を実施。生徒たちは国際問題や課題、NGO の取り組みに関心を持っているものの、漠然としており、教員からは、座学に終始するのではなく、ワークショップやディスカッションを取り入れながら自らで気づき考える機会を提供してもらいたいという要請があり、識字率、教育、ジェンダー格差、貧困といったテーマを取り入れたワークショップを中心に内容を構成。最後は、SDGs の内容、背景、解決に向けた NGO の活動を説明し、SDGs 達成に向けた具体的な取り組みの例として、加盟団体や当会の活動事例を紹介した。

<所感>

生徒たちは非常に熱心にワークショップに参加し、6 名のグループディスカッションを実施した際も、積極的に発言する生徒が目立った。生徒たちの感想からは、「実際に世界でどのくらいの金額が、何に使われているかなどがよく分かった、軍事費と教育費の比較をしたときの大きな差に驚いた」「女の子という理由で教育を受ける機会が失われる地域があることがショックだった」「(100 人村のワークショップで) お菓子を分けたり、ひもを使ったりすることで、具体的なことがよくわかったし、わかりやすかった。」「NGO について具体的なイメージがわいてきた」という感想が寄せられた。新入生向けの講演内容として、国際課題を自らの生活に引き寄せて考えるきっかけを提示することができ、高校側の要望にも応じることができたと考える。

星林高校の教員の一人が、2014 年に当会が開催した「第 1 回 ワンワールド・

フェスティバル forYouth ～高校生のための国際交流・国際協力 EXPO～」を見学に来られ、今回の NGO 相談員出張サービスの依頼に繋がった。高校生たちが机上の学問だけに終始するだけでなく、なにか自分たちで行動に移せる場を作りたいという考えがあり、ワンワールド forYouth への参加を検討いただいている。特に、東京と異なり、地方では NGO 職員から直接話を聞いたりする機会も少なく、高校生たちが横断的に企画・実施をする機会も多くない。関西のネットワーク NGO として、こうした地方の教育機関との連携・関係を大切にし、国際課題や国際協力に関する理解者層のすそ野拡大に尽力する方針である。

7. 別添（写真）



以上

平成 29 年 4 月 28 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

企 画 名 : 「青年海外協力隊/シニア海外ボランティア春募集説明会での相談員ブース出展」 ※出張形態: ブース出展

1. 出 張 者 : 上石景子 ((公財)PHD協会職員)
2. 実施日時 : 4月22日(土)14:30~17:00
3. 場所 : 和歌山ビッグ愛(〒640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2)
5. 対象者 : 説明会参加者 15名

6. 実施報告 :

和歌山ビッグ愛での青年海外協力隊/シニア海外ボランティア説明会では、午後のみ14:30から説明会が行われた。したがって、今回の説明会では、青年海外協力隊とシニア海外ボランティアの説明会が同時に行われた。説明会の前に、協力隊を描いた映画「クロスロード」が上映されたこと、また、同会場にて写真展が開催されていたことなどが影響し、説明会の参加者数は比較的多く、計15名であった。相談員ブースは会場の入り口付近に設けさせていただき、説明会の前(映画上映中)及び説明会後に相談対応を行った。

説明会の冒頭に NGO 相談員制度の説明及び PR の時間をいただき、制度の趣旨をお話した。また、協力隊帰国後のキャリア支援の一環として JICA が行っている NGO 活動支援制度についての質問に関してもお答えすることをお伝えした。

ブースでの相談件数は計 13 件で、上記 NGO 活動支援制度に関する質問や、協力隊として赴任したい国の情勢・治安・文化などについての質問があった。また、NGO 相談員制度を初めて知ったという方から、制度の詳細を教えてくださいとの相談もあった。

前回と同様、説明会において NGO 相談員制度の PR ができたことで相談件数の増加につながったと考えられる。また、JOCA の職員の方から相談員ブースへ行くことを勧めていただいたこともあった。上記のように、JOCA 近畿支部の方々のご協力により、今回も多くの相談対応を行うことができた。和歌山という NGO 活動があまり盛んではない地域で NGO 相談員制度のアピールや国際協力活動の普及ができたことは大きな成果であったといえる。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を 枚添付



①会場全体の様子



②相談員制度について説明中の様子



③相談対応中の様子



④相談対応中の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/春募集説明会』における NGO 相談員ブース出展
2. 実施者：独立行政法人 国際協力機構 関西センター（JICA 関西）
公益社団法人 青年海外協力協会 近畿支部
特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 相談員：高橋美和子
3. 日時：2017 年 4 月 23 日（日曜日）10:30～16:30
4. 場所：フェリエ南草津 5 階 市民交流プラザ大会議室
滋賀県草津市野路 1 丁目 15-5, 5 階
5. 参加者：シニア海外ボランティア説明会（午前）4 名
青年海外協力隊説明会（午後）17 名
6. 実施報告：相談者：7 名
（シニア：0 名、JOCA 職員 2 名、社会人 3 名、学生 2 名）
相談件数：12 件

<内容>

午前中に開催されたシニア海外ボランティア説明会は参加者は 4 名であり、NGO 相談員ブースでの相談はなかった。午後に開催された青年海外協力隊の説明会では、17 名の参加があり、国際協力分野におけるキャリア相談、インターンや就職について相談がありそれぞれ対応した。

・帰国後、JOCA の職員として仕事をしているが、期限付契約である。国際協力分野で仕事をしたい、できたら関西の NGO で働きたい。

→NGO の職員は、人権の著しい侵害の解決や緊急支援など、関わりたい課題を明確にし、組織のミッションに共鳴することが求められる。自身のファンドレイズを考えながら活動を継続するため、支援者を集め、助成金・補助金（N 連、事業補助金、JICA パートナーなど）を獲得する能力が問われることも説明する。JICA/Partner や各 NGO のウェブサイト以求人情報が掲載されるので日ごろから確認することを伝え、関心のある分野の NGO があれば、まず、ボランティアや会員としてかかわり、団体の情報をできる限り収集し、職員とも日ごろからコミュニケーションをとっていれば、採用の際に声をかけてもらえるケースが多いことも説明する。

・シニアボランティアの応募を考えている男性がいるが、心筋梗塞を患った過去があり、JOCA では採用が難しい。本人は健康であり、国際協力の分野での活動を強く希望しているため、どこか NGO を紹介いただけないか。

→国内でボランティアとしてかかわることは問題ないが、「国際協力」分野に関心があり、海外で活動をしたいということになると、海外でプロジェクトを回していく力量が問われる。単に海外に関心があるだけでは NGO の現場に行くことは難しい。まずは、スタディツアーに参加したり、国内で出来る業務に関わりながら、団体との信頼関係をつくり、短期間の滞在やスタディツアーの引率など、負担のかからない範囲で活動に参加する方法もあることを伝える。

<所感>

募集説明会への参加者が少なく、相談対応は多くなかったが、(帰国後を想定して)日本で参加できる国際協力やキャリアについては関心が高く、学生や若い世代から相談が目立った。他、日本国内の問題かと思われるが、非正規雇用の JICA/JOCA の職員より、期限付きの職場であるため、次の就職先として NGO の就職状況について相談を受けつけた。NGO としても、地域の国際協力推進員や調整員などが十分な引継ぎもなく頻繁に交代し、関係作りが難しいことも日ごろから感じている。こうした職員が、退職後、ネットワーク NGO でも仕事をできる環境があればよいが、地方の NGO は組織基盤が弱いこともあり、職員の採用には課題が残る。

近畿ブロックでは、昨年度から青年海外協力隊募集説明会に相談員ブースを出展しており、今年度は春の説明会から調整し参加をさせていただいた。秋の募集説明会でも近畿ブロック間で密な協力体制を取り可能な限り多くの会場で相談員ブースを出展し、相談員制度の周知と活用を促す方針である。

7. 別添 (写真)



以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『兵庫県立兵庫高等学校「創造応用」科目』における
SDG s および国際協力・国際課題に関する講演及び
ワークショップの実施
2. 実施者：谷川詩織 / (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 4 月 26 日 (水曜日)
4. 場所：兵庫県立兵庫高等学校
5. 参加者：生徒 12 名、教員 4 名
6. 実施報告：

<内容>

兵庫県立兵庫高校の学校設定科目「創造応用」にて、国際的な諸問題に関する課題研究に取り組む生徒 12 名を対象に SDGs をテーマとしたセミナーを実施。SDGs の全体像とその背景、実施原則、各項目に関連する国際問題等に関する講義ののち、一つの国際課題を構造的に考えるワークショップを実施。世界の課題と日本の生活との繋がり、SDGs の各項目同士の繋がりなどに気づき理解を深めた。また、SDGs 達成に向けた具体的な取り組みの例として、世界的な課題や社会問題に対する加盟団体や当会の活動事例とその成果について紹介した。

<所感>

アンケートからは「自分たちの普段の行動が SDGs に深く関係していることもあると知って驚いた」「これからは自分たちの行動を見直さないといけないと思った」「自分たちが何か行動を起こさなければと感じた」といった感想をいただいた。今回の目標「未来を担う若い世代が、持続可能な社会を実現するために市民としてできることを考え、自ら行動に移すきっかけとなる」についてはある程度達成できたと考えている。

講演やワークショップを通じて、様々な課題 (SDGs の目標) が複雑に関係しあっていること、日本の我々の生活も遠い国の問題に影響を与えていることを知り、複雑さに気づくと同時に「自分たちができること」を探そうとする姿勢の変化が見られた。高校生たちにとって、世界の諸課題や自分たちの生活について、深く考える機会となったようである。

7. 別添（写真）



以上